

## 為政第二

子曰、学而不思則罔、  
思而不学則殆。

し い 子曰わく、まな 学びておも 思わざればすなわ 則ちくら 罔く、  
おも 思いてまな 学ばざればすなわ 則ちあやう 殆し。

(2-31)

< 子曰わく、学びて思わざれば則ち罔く >

Q : 「子曰わく、学びて思わざれば則ち罔く」とは何ですか。

- A : (1) 「孔子が言った。視たり、聴いたりして他から学んだことを、自分なりに思考しなかったなら、道理にくらいものになってしまう」の意。
- (2) 「博く学ぶだけで自分の心で思いめぐらしてよく考え、よくその理をもとめてみないと、学んだことがぼんやりしていて、その道理をつかむことができない」の意。
- (3) 「学」とは、他にならい学ぶこと。読書。
- (4) 「思」とは、思索研究すること。
- (5) 「罔」とは、くらいこと。「惘」と同じで、理にくらく明るくなれないこと。はっきりその道理がつかめないこと。

< 思いて学ばざれば則ち殆し >

Q : 「思いて学ばざれば則ち殆し」とは何ですか。

- A : (1) 「逆に、他から学ぶことをせず、ただ自分だけで思考するならば、独善におちいる危険性がある」の意。
- (2) 「之に反して、自分の乏しい知識で思いめぐらすだけで、博く他人の言や古人の考えを学ぶことをしないと考え方が狭く、一方にかたよ 偏って、危険この上もないものだ」の意。
- (3) 「殆し」とは、「危」と同じで、あぶないこと。主観的な思索だけに頼って客観的な博い裏づけがないと、見解が固陋になって危険であるの意。
- (4) 学問をするには、学つまり読書と思索が伴わなければならない。学つまり他にならい学ぶこと、読書に加えて、沈潜思索して自己のものを生み出すことの大切さ。

2011年6月7日林明夫